

長崎県立長崎図書館所蔵「伊勢宮文庫」目録

大庭, 卓也
日本学術振興会特別研究員

矢毛, 達之
福岡女学院大学非常勤講師

井料, 佐紀子
九州大学大学院博士後期課程

菱岡, 憲司
九州大学大学院博士後期課程

他

<https://doi.org/10.15017/8965>

出版情報 : 文獻探究. 42, pp.11-26, 2004-03-31. 文獻探究の会
バージョン :
権利関係 :

長崎県立長崎図書館所蔵「伊勢宮文庫」目録

大庭 卓也〈責任編集〉・矢毛 達之・
井科 佐紀子・菱岡 憲司・吉良 史明

伊勢宮神社（現長崎県長崎市伊勢町在）は寛永六年の創設にかかり、その沿革は『長崎市史 地誌 神社教会部上』（長崎市 昭4）に詳述される。当社旧蔵の、その多くが第十一代神官を勤めた島重道（天保一〇年―明治二七年、五六歳）の収集にかかると思しい典籍類は、昭和十三年に長崎県立長崎図書館へ寄贈せられ、「伊勢宮文庫」と命名されて保管されている。重道は、近世後期長崎を代表する国学者・中島広足（寛政四年―文久四年、七三歳）の高弟であり、広足著『檀園長歌集 第一集』（天保一〇年刊一冊）の巻頭に門人を代表して題詞を寄せ、また広足が長崎歌人の作品を集めた『瓊浦集 初編』（天保一一年刊二冊）に六首の和歌を入集するなど、広足が主催する和歌結社「檀園社」を実質的に支えたひとりであったと考えてよいであろう。

さて、「伊勢宮文庫」の書目の詳細に関しては、既に、荒木龍太郎・川村裕子・黒木香・高橋敬一・柴田雅生・野中和孝の諸氏により作成された「伊勢宮文庫目録」（『活水論文集』第三二集 日本文学科編 平1・3、以下「目録」と略称する）が備わっており、これによって、広足周辺の国学者がどのような書物から知識を得ていたのか、そ

の一斑を具体的に通覧できるようになったと言えよう。ただ、同図書館における古典籍の管理体制上の問題から、複数の文庫の境界が曖昧となり混乱を来たしていることが主な原因かと推察するが（註1）、伊勢宮神社寄贈の典籍で「目録」に漏れるものは三〇点認められ、そのほか記載内容にも、書型、巻冊数、刊写年時、あるいは刊写の別にまで訂正すべき点が多く見受けられるのである。

また「目録」の末尾には「函入」本として、次のような四点の書物を掲げておられる（書誌は筆者たちの調査による）。

- ・ 大学衍義 大本四三卷二〇冊 天明七年刊
- ・ 万葉集略解 大本目録二卷二〇卷三二冊 安政三年補刻・（明治期印）
- ・ 井蛙抄 六卷五冊 （近世前期）写
- ・ 観世流能并仕舞手附
 - 〔能装束附〕 横本一冊 （近世後期）写
 - 〔能手附集〕 横本一冊 （近世後期）写
 - 能狂言集 大本一冊 （近世後期）写
- ・ 観世流能作物 大本一冊 （近世後期）写

横笛之譜 半紙本一冊 (近世後期) 写

笛譜仕舞手附 横本一冊 (近世後期) 写

幸流手附 横本一冊 (近世後期) 写

観世流能手附 横本八冊 (近世後期) 写

一方、「伊勢宮文庫」の書物には、寄贈せられた時点で「伊勢宮神社寄贈」の七文字を刻する図書館の受け入れ印が例外なく捺されているという事実があるが、これら四点のいずれにも受け入れ印はない。また寄贈時に図書館が作成した受け入れ原簿についても、四点とも著録されてはいないのである。うち、『大学衍義』に関しては、毎冊開巻冒頭に「諫早氏／蔵書記」(白文方印)、即ち佐賀藩諫早家の蔵書印が捺されており、平成二二年度まで長崎図書館に寄託されていた「諫早文庫」^(註2)の一であることが明白であるので、受け入れ印・受け入れ原簿への著録がないのは当然としても、残りの三点、『万葉集略解』『井蛙抄』『観世流能并仕舞手附』は、いかに理解すべきであろうか。念のため、「目録」作成者の一人であり、これら三点のうちの『井蛙抄』を伊勢宮神社旧蔵として紹介されている^(註3)野中和孝氏に、私信にてこの点をお尋ねしたところ、『井蛙抄』に関しては、氏が伊勢宮神社に神社旧蔵のものかどうか、直接確認された由をご教示くださった。その際、神社側は推測のかたちで、件の『井蛙抄』が神社旧蔵のものであると回答せられたと言うことである。受け入れ印・受け入れ原簿の問題は依然として残るものの、本稿では、野中氏のご教示、また「目録」の判断に従い、『万葉集略解』『井蛙抄』『観世流能并仕舞手附』を「伊勢宮文庫」に属するものとして、ここに言及するにどめておくことにしたい。

以上のような経緯から、図書館作成の受け入れ原簿をもとに、「伊

勢宮文庫」の目録を改めて作成したのが本稿である。受け入れ原簿に著録されて現物が見当たらないのは、中島広足著『敏鎌』(嘉永六年刊一冊)一点のみ、その他は幸いにも散佚を免れているようである。記載内容には万全を期したつもりではあるが、思わぬ誤りも多々あるうかと思われる。それらに関しては大方の叱正を仰ぐこととしたい。

註

註1 同図書館所蔵の古典籍群の現状に関しては、『長崎県立長崎図書館蔵 善本・稀書展解説』(共編、平14 長崎大学環境科学部研究科 長崎県立長崎図書館)、「亀井南冥・昭陽・暘州資料探訪―長崎県立長崎図書館蔵「頼原文庫」紹介―」(「西日本文化」三九一号 平15・5)、「長崎文庫」創設始末(上)―長崎における図書館事始―」(共著、「九大日文」第三号 平15・10)などの拙文を参照されたい。

註2 現在、諫早市立諫早図書館所蔵。

註3 『井蛙抄』(雑談篇)本文と校異』(和泉書院 平7)。

(大庭)

凡 例

- 一 本目録は、長崎県立長崎図書館所蔵「伊勢宮文庫」の目録である。
- 一 分類は、長沢規矩也編『内閣文庫国書分類目録』のそれを基礎とした。ただし該当する書物がない類目については省略した。
- 一 記載は、書名、書型・巻冊数、編著者名、を標目とし、行を改めて、刊行書写年時、序跋文、出版書肆、蔵版者の四項目を基礎情報として、必要に応じて若干の情報を記した。
- 一 書名は、原則として外題を採った。外題が欠落するもの、あるいは近現代に補われたものに関しては、見返し、内題などにより、書名の下に（見）、（内）などと記した。書名がないものに関しては、調査者が適当と判断する名を「」内に記した。また角書きがあるものに関しては【】内に記した。
- 一 書型は、大本↓大、半紙本↓半、中本↓中、小本↓小、横本↓横、折本↓折などと略記した。なお、明治期以降の活版洋装本に關しても、便宜上この呼称に従った。
- 一 巻冊数は、一卷一冊のもの、あるいは不分巻のものは冊数のみを記した。また不揃本の場合は、巻冊数に「存」の字を記し、続けて（）内に残存状況を記した。残存状況を記して煩瑣になる場合には、欠落状況を記した。
- 一 編著者名は、原則として原本内題下の表記を、それが無い場合には、他の部位の表記をそのまま採った。原本に編著者名が記されない場合は、『国書総目録』などにより（）内に記して補った。

- 一 刊行書写年時に関し、刊記・奥付・奥書などが無い場合には、序跋類の撰述年時をもってそれに代えた。それをも欠く場合には、調査者が適切と判断する大まかな刊行書写年時を（）内に記した。その際の判断基準は、近世極初期（慶長↗寛永）、近世前期（正保↗元禄）、近世中期（宝永↗天明）、近世後期（寛政↗天保）、近世末期（弘化↗慶応）、明治期、の「ごとくである。
- 一 序跋文に關して、撰述年月日は元号と年数に改め、撰述者名は原本の表記をそのまま採った。また題字・凡例の類も、これに従って採った。
- 一 出版書肆は、その所在地とともに原本の表記をそのまま採った。ただし複数名が列記される場合には、最後尾の書肆名を記し、その他の書肆数を記した。
- 一 蔵版者は、それが出版書肆と異なる場合にのみ記した。
- 一 蔵書印は、島家および同家の学問にかかわるものを中心に、印文をそのまま記した。採用した蔵書印は、後掲の蔵書印一覧を参照されたい。なお、「重道ノ之印」（朱文方印）は島重道の、「志計ノ由伎」（朱文円印）は島重行の所用印である。重行に關しては、本文中の書物に記された署名が散見されること、またその自筆の説教手控え『ときごとぶみ』が本文中にあること以外知るところがない。また「あき／さね」（朱文円印）、「阿伎ノ佐祢」（朱文方印）は、中島広足門人の西田秋実（生没年未詳）の所用印である。広足著『詞玉緒補遺』（安政七年刊六冊）に、彼の撰んだ序文が見え、重道と同様に広足門下で重きをおいた人物だったのであろう。

（大庭）



「志計／由伎」
直径 1.8cm
(朱文円印)



「しま／書印」
4.5cm × 2.7cm
(朱文長方印)



「島／章」
1.8cm × 1.8cm
(朱文方印)



「あき／さね」
直径 2.8cm
(朱文円印)



「阿伎／佐祢」
2.9cm × 2.9cm
(朱文方印)



「伊勢／宮之／印」
2.9cm × 2.9cm
(白文方印)



「重道／之印」
3.1cm × 3.1cm
(朱文方印)

「伊勢宮文庫」主要蔵書印一覧

総記

拾芥抄 大三卷六冊 (洞院公賢編)

寛永一九年刊。西村吉兵衛。書入レ多クアリ、内ニ「幸足按…」
「二宮幸足按に…」ト見ユ。

実録彙篇 初輯 中六卷六冊存 (第一、四、六・七)

高野真遜編

活版。明治一八・一九年刊。東京忠愛社。

第一 徳川幕府宝蔵入百箇条

將軍心得ヶ条

老心得ヶ条

第二 浅野長矩吉良義央刃傷及赤穂四十七士復讐ノ一件 (一)

第三 赤穂四十七士復讐一件 (二)

熊本藩土堀内伝右衛門聞書 (上)

第四 赤穂四十七士復讐一件 (三)

熊本藩土堀内伝右衛門聞書 (下)

第六 大塩平八郎大坂ニ於テ暴動ノ始末 (二)

第七 大塩平八郎大坂ニ於テ暴動ノ始末 (三)

日本文学全書 半五編五冊存 (第三、七編) 小中村

義象・落合直文・萩野由之校訂

活版。明治二三年刊。東京博文館。蔵書印「島ノ章」。

第三編 十六夜日記・落窪物語・弁内侍日記

宮内次官伯爵吉井友実公題辭。明治二三年六月久

米幹文序。

第四編 堤中納言物語・とりかへばや物語・四季物語

法制局長官従三位勲一等井上毅題詞。明治二三年

七月黒川真頼序。

第五編 中務内侍日記・讃岐典侍日記・和泉式部日記・蜻蛉日

記

明治二三年秋日伊達宗城題詞・磐之屋主人作楽

序。

第六編 浜松中納言物語・大和物語・唐物語

明治二三年八月九条道孝題詞序。同年九月從五位

木村正辞序。

第七編 宇治拾遺物語・多武峯少将物語

出雲尊福題詞。明治二三年九月落合直澄序。

松の落葉 大四卷目錄一卷五冊 藤井高尚著

文政一二年凡例刊。文政一二年春中村孫三郎寛凡例。

神祇 附国学

神代紀葦牙 大三卷三冊 栗田土満著

文化一四年跋刊。文化八年五月二一日平大平序。文化一四年青

柳種信跋。大坂河内屋儀助他五肆。藏書印「重道ノ之印」。

止由氣之御靈 大一冊 岩政信比古著

本末歌の解

合綴。藏書印「重道ノ之印」。

（止由氣之御靈）嘉永六年刊。嘉永五年二月出雲宿称俊榮序。同

年後の二月出雲宿称尊澄序。文化一四年夏越智信比古識語。

神門守手跋。臣中村守手識語。大坂柏原屋清右衛門他五肆。

桜戸藏版。

（本末歌の解）嘉永三年三月出雲宿称尊澄序。文化一四年夏岩政

要吉越智宿称信比古識語。大坂柏原屋清右衛門他二肆。桜戸

藏版。

くぐのさわたり 大一冊 橘公正著

（近世後期）写。

歴朝神異例 大七卷三冊 橘守部著

（近世後期）写。天保一四年七月橘守部序。

古史徴 開題記 大四卷四冊 平田篤胤著

文政二年刊。文政元年一二月山崎長右衛門篤利序。文政二年四月

新庄仁右衛門道雄序。

古史成文 大三卷三冊 平篤胤著

文政六年序刊。文政六年九月一五日治部卿藤原貞直序。伊吹廼

屋塾藏版。

玉だすき 大六卷六冊存（卷一、三、七） 平田篤胤著

嘉永三年跋刊。嘉永三年三月神祇伯資敬王序。天保二年六月一八

日本居大平序。藏書印「重道ノ之印」。

稽古要略 大一冊 藤好尚著

安政三年例言刊。安政三年正月緑河亭主人例言。伊吹廼屋塾藏版。

同（内） 大一冊 藤好尚著

安政三年例言刊。安政三年正月緑河亭主人例言。伊吹廼屋塾藏版。

見返墨書「嶋八百路ノ重行所藏」。藏書印「しまノ書印」。

古道訓蒙頌 大一冊 久保季茲著

安政五年刊。安政二年鶴峰戊申序。関左上杉朝在・三上頼明・森

田道依題詞。杉舍藏。藏書印「しまノ書印」。

古学二千文 大一冊 生田国秀著

万延元年識語刊。嘉永二年八月賀藤景琴序。万延元年一二月宮

本芳郡識語。嘉永二年一月一五日菅原豊秋跋。伊吹廼屋塾藏版。

古史伝 大二八卷二八冊 平篤胤著

(近世後期) 刊。伊吹迺屋塾藏版。

同 大二卷二冊存 (卷一二、一六) 平篤胤著

(明治期) 印。

神徳略述頌 大一冊 源季茲著

(明治期) 刊。伊吹迺屋藏版。

国意考 大一冊 賀茂真淵著

寛政六年写。校合ニ関スル朱書多シ、マタ左ノ書写奥書アリ。

「この一まきのうつしぶみは、水どりの加茂の大人、なべて世のことさへぐ、からくにぶりにまどへるをおどろかさんとてかきたるなり、さればすべ国の人ちふ人、こをつばらかによみてたなしらば、しきしまの大和ごころをふりおこすのみかは、いそのかみふるきむかしをあきらめなん手づきともならざらめやは、寛政六年うづき二十八日に写しをへてかきつけつ。

近つあふみの国人越知なほみ (花押)」

「寛政六年五月仲瀬看過之次推放魯魚以書其旁直躬重識」

「同じとししはすのころ、とも塙明田の鮒主がもたるを得て、ふたゝびよみかうがへぬ／直躬しるす」。

くず花 大二卷二冊 本居宣長著

享和三年刊。市岡多気彦跋。大坂藤屋善七。市岡孟彦藏板。

西籍慨論 半四卷四冊 平田篤胤著

(近世末期) 写。

賢所祭神考証 半一冊 田中頼庸編

明治一四年刊。一品幟仁親王題字。出版人田中頼庸。

白川家神葬式 大一冊

(近世後期) 写。

神葬祭式 半一冊

明治三年写。卷末ニ「県令北島秀朝君葬祭次第」ヲ付ス。中島広行 (植木貴恒、中島広足ノ養子。文化一三年—明治三三年、八五歳) 蔵本ヲ書写セル旨ヲ記ス左ノ奥書アリ。

「右中島広行以本写 明治三年庚午十二月十二日於燈下ノ嶋蔵」。

葬祭考 大二卷一冊 藤原芳樹著

明治三年写。蔵書印「伊勢ノ宮之印」。中島広行蔵本ヲ書写セル旨ヲ記ス左ノ奥書アリ。

「明治三年庚午十二月 中島広行以本写畢ノ嶋蔵」。

葬事略 大一冊

(明治期)写。

葬事略記 大一冊 角田忠行著

(明治期)刊。師岡正胤跋。蔵書印「重道ノ之印」。

葬儀式別記抜 半一冊 稲葉正邦著

(明治期)写。大教正正七位権田直助識語。

廿一社記 半一冊 (北畠親房著)

(近世前期)刊。京都村上平樂寺。

荷田大人啓 大一冊 荷田東麻呂著

慶応二年序刊。慶応二年一月平隼胤序。内題「荷田大人創学校啓」。伊吹廼家蔵版。蔵書印「しまノ書印」。左ノ奥書アリ。

「此書妄勿欲觀宜請吾若不閱披之忽蒙可神罰ノ嶋八百路(花押)ノ所蔵」。

ときいしとらみ 半二冊 島重行著

(明治七年頃)写。島重行ノ自筆説教手控。尾ニ七月二〇日ヨリ一二月三〇日マデノ日記アリ。

同 半二冊 島重行著

(明治期)写。島重行自筆説教手控。蔵書印「しまノ書印」「志

計ノ由伎」。

仏教

【翻刻】因明入正理論科註 大一冊 無相無動著

明治一四年刊。後印。文化二年九月豊山本願院住持僧睿倫序。釈無相無動識語。京都永田調兵衛。

言語

冠辞考 大一〇卷一〇冊 賀茂真淵著

寛政七年刊。再刻本。大阪秋田屋太右衛門他四肆。

県居雑録補抄 大一冊 藤原美波留著

文化九年序刊。文化九年七月藤原美波留序。江戸英平吉郎。

かざし抄 半三卷三冊 富士谷成章著

明和四年凡例刊。明和四年二月吉川彦富・山口高凡例。京都葛西嘉兵衛他一肆。

あゆひ抄 半五卷首一卷六冊 富士谷成章著

安永二年凡例刊。安永二年六月吉川彦富・井上義胤凡例。京都葛西嘉兵衛他一肆。

言葉のやちまた 大二卷二冊 本居春庭著

文政元年刊。文化三年五月一三日尾張植松有信序。京都菱屋孫兵衛。

文 学

栄花物語 中四〇卷惣目録一卷二一冊

明暦二年刊。本文注釈二関スル貼紙アリ。京都林和泉掾。

訓点復古 半二卷附一卷二冊 日尾荊山著

(近世後期)写。天保六年刊本ノ写シ。天保六年一月丸山信序。同年一月元日尾鐸序。同年一月荊山日尾瑜凡例。天保五年一〇月本間忠君恕識語。天保六年一月新井文饒跋。

続世継 大一〇卷一〇冊 藤原為経著

天保一三年刊。近世木活字。合欽園活板。「幸足按」「幸足補」トシテ本文校訂・註釈二関スル書入レ多クアリ。

和名類聚抄 大二〇卷五冊 源順著

元和三年序刊。源順序。元和三年十一月羅浮散人序。那波道円凡例。大坂渋川清右衛門。蔵書印「重道ノ之印」。

〔新板〕鉄槌 大四卷四冊 (青木宗胡著)

寛文一二年刊。後印。京都西沢大兵衛。蔵書印「重道ノ之印」。

総訳亜細亞言語集 支那官話部 半四卷四冊 広部精著

明治二五年刊。再刻。明治一三年二月広部精凡例。同年一月広部精跋。東京青山堂書房。

〔昔家須磨記〕 大一冊

宝暦二年写。左ノ奥書アリ。「右者或居家之秘書須磨之記、拜之而帰、其夜覺侍るかぎりをしるしめ侍るぞノ于時宝暦二年申二月」。

亜細亞言語集 支那官話部 半七卷二冊 広部精著

明治二五年刊。再版。明治一二年夏副島種題字。同年広部精凡例。東京青山堂書房。

須我笠の日記 大二卷二冊 本居宣長著

(近世中期)刊。京都河南宗□他六肆。

餌袋日記 大一冊 本居大平著

嘉永七年序刊。嘉永七年三月晦日出雲宿祢尊澄序。本居内遠跋。

嘉永七年二月佐々易直識語。大阪河内屋茂兵衛他一二肆。
土佐日記抄 (内) 大二卷二冊 拾穂軒季吟著
(近世後期) 写。

文意考 大一冊 賀茂真淵著

享和二年刊。寛政一二年一〇月あらし田神主久おゆ序。京都林安五郎他三肆。五十槻園蔵板。蔵書印「重道ノ之印」。

松壺文集 大三卷三冊 出雲宿称尊澄著

慶応三年跋刊。文久三とせ九月二〇日西郵公鮮跋。慶応三年一月源寿忠跋。慶応三とせ二月嶋重稔跋。名古屋奎文閣。松壺御蔵板。

文語解 半五卷五冊 大典頭常著

明和九年序刊。明和九年三月竺常序。京都菱屋孫兵衛他五肆。

歌神考 大一冊 出雲宿称尊澄著

文久二年序刊。文久二年九月平豊頼序。嘉永七年六月岩政信比古序。神門守平跋。蔵書印「重道ノ之印」「しまノ書印」。

古今類句 大三二冊存 (れ・ね冊欠) 山本春正編

寛文六年刊。京都舁屋彦右衛門。

うたぶくろ 半六卷六冊 (富士谷御杖) 著

寛政五年刊。平安北□□□成寿序。京都葛西嘉兵衛他六肆。蔵書印「あき／さね」。

歌意考 大一冊 賀茂真淵著

寛政一〇年序刊。寛政一〇年七月從四位下荒木田神主久老序。五十槻園蔵板。蔵書印「重道ノ之印」。

寄居歌談 半三卷三冊 近藤芳樹著

弘化二年刊。天保一三年冬藤原芳樹序。天保一三年一月・同一年一〇月藤原芳樹識語。芸州広島井筒屋忠人郎。求古齋蔵版。

八代集抄 半四八冊存 (卷三ノ五〇) 北村季吟著

天和二年刊。天和二年二月時正日北村季吟跋。浪華小川屋六藏他四肆。

類題和歌集 半三一卷三一冊 (後水尾天皇編)

元禄一六年刊。京都出雲寺和泉掾。

百人一首改観抄 大五卷六冊 契沖著 樋口宗武補

延享五年刊。元禄五年六月攝江高津沙門契沖序。延享四のとし九月花月堂主人樋口宗武序。京都勝村治右衛門。

万葉集略解 大 目錄二卷二〇卷二八冊 橘千蔭著

合綴。寛政八年刊。寛政三年三月二十五日橘千蔭序。同一二年一〇月橘千蔭跋。本文校訂・訓二関スル書入レ、付箋多シ。名古屋永樂屋東四郎他一肆。芳宣園藏版。

古万葉集 大二〇卷二一〇冊 今村樂校

享和三年序刊。近世木活字。享和三年八月土佐人今村樂序。横田美水跋。賀茂季鷹ノ説ヲ移写セル本ニ小山進（平田鉄胤門、天保七年―明治四一年、七三歳）ガ丸山作樂・加藤千蔭オヨビ自説ヲ書入レシモノ。見返ニ左ノ識語アリ。

「此文は、加茂の季鷹主のもたりしふみと見えたり、然るを己文（虫想）よりもとめみつゝ、仮文字の側に真文字を填たるは、丸山さくら主の説によりぬ、解ニ云とあるは、万葉略解による、進云とあるは、己いまだしきほどのすさび（虫想）□□いとほづかしきことなむ多かれど、其はづかしきをもかへり見ず、守部主□□（虫想）あへる友どちなれば、記念とておくり参らす事を一言そへぬ、／明治八年十一月十三日 小山進」。

万葉新採百首解 半五卷二冊 賀茂真淵著

（近世後期）写。本文校訂・註釈ニ関スル書入レ、付箋多シ。蔵書印「重道ノ之印」。

類題草野集 半一二卷一二冊 木村定良著

文政五年識語刊。さゞ浪のや清水浜臣序。文政二年二月椿園のあ

るじ巨勢利まさ序。文化一四年六月木村定良凡例。文政五年九月木村定良識語。江戸岡田屋嘉七他五肆。蔵書印「重道ノ之印」。

明教歌選 中三卷三冊 久保徳隣編

明治八年刊。明治七年一月久保徳隣凡例。東京立志堂吉岡氏。久保氏藏版。

春の曙 半一冊 中山文樹編

活版。明治二四年刊。從四位竹添光鷗題字。中島広行序。梅乃舎藏版。

寄山祝集 大一冊

（明治期）刊。活版。

桂園一枝 大三卷三冊 香川景樹著

文政一三年刊。文政一一年一〇月末平清樹序。京都河南儀兵衛他四肆。東塙塾藏。

真璞集類題（内）中二卷三冊（千家尊孫著）

安政二年刊。嘉永六年五月出雲宿祢尊澄序。大坂柏原屋清右衛門他一〇肆。鶴山中藏板。蔵書印「しまノ書印」。

景樹判 五十四番歌結 大一冊 香川景樹判

(近世後期) 写。文化一四年六月二日香川景樹識語。藏書印「重道ノ之印」。

さいばら考 大一冊 (賀茂真淵著)

(近世後期) 写。藏書印「重道ノ之印」。尾二左ノ奥書ヲモ書写ス。

「右県居并魚彦所考借田中道万呂改写之畢戊戌閏七月廿五日ノ高安香実」

「同十一月借中院家校本校之与古本大同小異故不録之」

「于茲寛政五年九月下旬請借小林昌保君之本書写之ノ青柳種麻呂」

「于茲寛政八年式月中旬以青柳種万呂之本書写之ノ熊野美路」。

和漢朗詠集抄 (内) 半八卷四冊 高井伴寛著

享和三年序刊。享和三年立春日高井伴寛序。藏書印「島ノ章」。

歴史

〔増補〕日本政記 中一六卷八冊 頼襄著 頼又次郎補

明治九年刊。明治九年六月頼復例言。大坂岡田茂兵衛他二肆。頼氏藏版。

〔籠頭古事記〕 大二卷二冊存(卷中・下) 度会延佳校

貞享四年跋刊。貞享四年二月二九日豊受皇太神宮権祿宜正四位下度会神主延佳跋。藏書印「重道ノ之印」。

古事記伝 大四七卷(目録・卷一、三ノ四四、三大考)

四七冊存 本居宣長著

文化五年刊・天保一五年修。名古屋永楽屋東四郎他七肆。

日本書紀 大三〇卷一五冊 舍人親王等編

嘉永五年刊。再刻。慶長四年三月正四位下行少納言兼侍從臣清原朝臣国賢序。慶長一五年五月念八洛沓野子三白跋。大坂敦賀屋彦七他九肆。

通語 大一〇卷三冊 中井履軒著

天保一三年序刊・明治九年印。天保二年春早野正己序。同一三年一二月中洲清水原序。懷徳堂藏。

国史纂論 半八卷四冊存(卷三ノ一〇) 山縣禎著

明治一一年刊。弘化二年一二月安積信跋。同年八月小倉実敏跋。東京木村文三郎。

先哲像伝 大四卷四冊 原徳斎著

弘化元年刊。弘化元年夏竹醉日江都徳斎原義正道甫序。大阪河内屋茂兵衛他七肆。

日本立志編 一名修身規範 半 初編三卷二冊 二編三

卷二冊 干河岸貫一著

初編 明治一二年刊。明治一三年三月念五福地源題辭。岸貫一

緒言。

二編 明治一三年刊。明治一三年五月一三日敬宇中村正直序。

大阪前川善兵衛。

地理

京之水 大二卷二冊存(付函欠) 秋里湘夕編

(近世後期)刊。大坂河内屋太助。二冊共二見返シニ「浪華ノ斎華園持本」「斎華園持本也」、第二冊裏表紙ニ「戲作堂門人ノ近松梅雅」ト旧藏者署名アリ。

政治・法制附故実

〔校正〕通議 (見) 中三卷一冊 頼襄著

合綴。明治一五年刊。大坂前川源七郎。

令義解 大一〇卷一一冊 清原夏野等撰

慶安三年序刊。後印。慶安三年蓬生巷林鷗序。京都吉田四郎右衛門。藏書印「重道ノ之印」。近藤芳樹校正本ノ書入レヲ移写シ、

併セテ本文中ニ山田以文(藤貞幹門、宝曆一三年―天保六年、七四歳)ノ説ヲモ書入レシモノ。第一冊ニ左ノ奥書アリ、

「文政十二年九月四日於京師以野宮殿文庫所藏集解校之」

「文政八年十二月廿二日於洛東吉田郷校正之畢ノ周坊田中芳樹」。

マタ第二冊ニ左ノ奥書アリ。

「右職員令一卷以久壽二年之校本校ノ山田以文在判」。

延喜式 大七卷七冊存(卷一〜七) 藤原時平等著

(近世前期)刊。

〔日本古来〕財産相続法 中一冊 丸山正彦著

活版。明治二二年刊。法制局長官從三位勲三等井上毅序。明治二一年五月正六位勲六等木村正辞序。同年四月廿七日加藤弘之跋。東京岩本米太郎。松盧藏版。

職官志 大七卷四冊 蒲生秀実著

文化一三年跋刊。文化一三年一二月会沢安跋。修静菴藏。

冠位通考 大一冊 石原正明著

文政元年刊。文化二年七月廿三日石原彦左衛門正明識語。名古屋片野東四郎他三肆。

標註職原抄校本 二卷別記二卷六冊 藤原芳樹著

安政五年刊。嘉永七年四月安積信序。大坂秋田屋太右衛門他一〇肆。

年一月人日壺井義知序。同年一月上澁德田良方跋。

職原抄百敷草 大二卷一冊 伊木常敬著

(近世後期) 写。伊木平常敬序。藏書印「重道ノ之印」。

皇国制度考 大三卷二冊 平篤胤著

(近世後期) 刊。中根師質序。天保^{〔字本〕}□年一月平田鍊胤識語。伊吹廻屋塾藏版。藏書印「しまノ書印」。

雲上明覽大全(内) 小一卷一冊存(下卷)(西本願

寺光徳府編)

嘉永二年刊。京都竹原好兵衛。藏書印「しまノ書印」。

教育

儀式 大九卷九冊存(卷一ノ八、一〇) 藤原以文校

藤原有孝等再校

天保五年刊。大坂吉田善藏他三肆。

〔無窮国是〕性理夕話 半一冊 松田敏足著
明治二三年刊。明治二三年七月盤之屋の主人作樂序。東京会
通社。

時令解 半五卷二冊 鍬形意政著

天保一五年序写。天保一五年六月念八日鍬形意政序。

産業

公事根源集釈 大三卷三冊(松下見林著)

(近世中期) 刊。

新撰雛形(内) 大一卷一冊存(卷一) 木暮甚七著

宝曆八年序刊。宝曆八年九月吉辰木暮甚七序。

芸術

装束要領鈔 大二卷附一卷一冊 壺井義知著

徳田良方注

好古小録 大二卷附録一卷二冊 藤原貞幹著

正徳六年序刊。合綴。正徳六年一月望日牛山翁香月啓益甫序。同

寛政七年刊。寛政六年六月正五位下橘経亮序。京都鶴鶴惣四郎他

四肆。藏書印「阿伎／佐祢」。

好古日録 大二卷二冊 藤原貞幹著

寛政九年刊。寛政八年一月下浣日藤原資同序。京都鶴鶴惣四郎他四肆。藏書印「阿伎／佐祢」。

諸芸

家相活断口訣萃 大一冊

天保一一年写。

準漢籍・漢籍

四書講義 中二卷二冊 山本憲著

活版。「漢文全書」第三・四編。明治三八年刊。第三一刷。明治二六年立春日山本憲梅崖序。大阪北島長吉他二肆。藏書印「島／章」。

春秋左伝雕題略 (見) 大六卷三冊 中井履軒著

嘉永五年写。弘化四年刊本ノ写シ。弘化三年五月下澣三日一齋佐藤坦序。同年一二月七日山田寛跋。左ノ書写奥書アリ。「嘉永五壬子季下浣／水町基宜写之」。

詩経講義 (扉) 中一冊 小宮山綏介著

活版。明治二六年刊。東京博文館。藏書印「島／章」。

唐詩選 小七卷一冊 (明) 李攀龍編 (服部南郭点)

文化九年刊。再版。合綴。濟南李攀龍序。服元喬附言。物茂卿題。江戸小林新兵衛。

【増補】文章軌範評林 大正編七卷 続編七卷六冊

正編 (宋) 豊山謝枋得編

(明) 九我李廷機評訓

藍田東龜年補訂

続編 (明) 東郭鄒守益編

(明) 漪園焦竑評校

藍田東龜年補訂

明治一六年刊。寛政三年正月東龜年序。東龜年補訂凡例。明治一四年冬月河村与一識語。大阪柳原喜兵衛・同岡田茂兵衛。

郝京山大学解 大二卷二冊 (明) 郝敬著 三浦邦彦校

文化四年刊。文化四年一二月中野煥季文序。京都梶川七郎兵衛他二肆。齋政館藏。藏書印「島／章」。

孔叢子 大一〇卷五冊 冢田虎註

寛政七年序刊。寛政七年八月冢田虎叔猊序。同年九月岩名展親跋。環堵室。大坂秋田屋大右工門他八肆。

〔蓼懷堂琴譜大全〕 大四冊 雲志高載青校

(近世後期) 写。古岡弟黄国璘暉山序。瓊海雲志高載青序。

夜譚隨錄 半一二卷二冊 (清) 霽国主人關斎著

(近世後期) 写。乾隆四四年六月霽国主人序。

繡像今古奇觀 (目) 中一二卷四冊 (明) 抱甕老人・

笑花主人著

(清) 刊。合綴。姑蘇笑花主人序。西園書屋。

〔付記〕調査を実施するに際して直接のお世話をいただいた、長崎図書館資料課係長・酒井良子氏、長崎大学環境科学部教授・若木太一氏に深甚の謝意を表します。また本目録作成の過程で、長崎図書館郷土課課長・本馬貞夫氏に御教示を頂いた、併せて御礼申し上げます。なお、「伊勢宮文庫」を含む長崎図書館所蔵の古典籍調査にあたっては、平成十三年十一月より同十六年三月まで、二十八回、延べ八十六日間の調査を実施したが、その間、作業に従事した者は左の通りであり、「伊勢宮文庫」の最終的な点検作業にあたったのが、本稿表題下に記した大庭以下五名である。

井手裕子・井料佐紀子・上田諭・内野優子・江藤秀一・大久保慎太郎・大庭卓也・小川竜紀・勝野寛美・亀井森・吉良史明・熊谷政人・蔵本朋依・河内重雄・古賀秀和・佐田亜紀・関澤智子・高瀬淳嗣・宅間真紀・田邊菜穂子・田村隆・菱岡憲司・藤光央・幣旗佐江子・前田桂子・松浦恵子・松尾晋一・松尾弘徳・森哲子・矢毛達之・吉田洋一(以上五十音順)

(おおば たくや・日本学術振興会特別研究員)
(やけ たつゆき・福岡女学院大学非常勤講師)
(いりよう さきこ・九州大学大学院博士後期課程)
(ひしおか けんじ・九州大学大学院博士後期課程)
(きら ふみあき・九州大学大学院修士課程)